

震災復興支援活動の記録

住所 ※①市町名は公開 させていただきます す	〒	(事務局記入欄)
	(① 市・郡・町)	明石市
	(② 区・町・字)	
	(② 丁目・番地等)	
	(④ 住)	
氏名 団体名	安全食品連絡会	
活動の内容 名称 期間 場所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど	活動の内容 震災体験記の出版 「忘れないで 一月一七日のことを 私たちの震災記」 安全食品連絡会は、市販食品の安全確保をめざして活動を行っている主婦 中心の消費者団体です。 阪神・淡路大震災から10周年を契機に震災体験記を出版しました。 阪神・淡路大震災では多くの会員が被災したり、本人や家族が健康を害さ れたりしました。この震災での体験記を多くの方々に読んでいただくことで、 その辛い体験を共有して、一緒にこれからの私たちの暮らし方や社会・政治 のあり方などを考えたく思っています。	

震災復興支援活動の記録

<p>住所</p> <p>※①市町名は公開させていただきます</p>	〒	(事務局記入欄)
	①市・郡・町	明石市
	②区・町・字	
	③丁目・番地等	
	④TEL	
氏名 団体名	岩井 保之 (明石市消防団)	
<p>活動の内容</p> <p>名称 期間 場所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど</p>	<p>震災復興支援と呼べるかわかりませんが、災害時の組織力という点で消防団を再認識しました。取り組むいるのは団員の意識向上です。まず自分が知識を高めなければと思い、消防学校のすべての科に入校し、防災未来センターなどの勉強会に参加し、他の地域の消防団との意見交換会にも参加し、困っている事などを話し合いました。</p> <p>自治会などで行う訓練にも参加、提案し、消火器による初期</p>	
	<p>消火訓練以外に高齢化に伴い、急救の出動回数が増えているので、正しい119番の掛け方、救命講習を行いました。</p> <p>団員に対しては、訓練や災害現場など、初場において、学校で学んだ事を教えています。行政への提案と話し合えるような団員が増えてきています。</p>	

震災復興支援活動の記録

住所 ※①市町名は公開	〒	(事務局記入欄)
させていただきます	(①市・郡・町) 明石市 (②区・町・字) (③丁目・番地等) (④TEL)	
氏名 団体名	コーポボランティア 西明石ひまわり	
活動の内容 (名称 期間 場所 具体的内容 うれしかったこと 困ったことなど)	コーポ西明石エリアの3ヶ所の仮設訪問 大久保 東原 218戸 } メンバー10名にて 鳥羽上が池公園 62戸 } 週1回訪問 西明石馬天南 50戸 } 各仮設にふれあいセンターが来てからはふれあい喫茶 復興作り、くま煮作り、牛打らうどん他で交流 東原では住民の方と花壇作りをして水やり他さまざま 共同でした	
	H7/3 ~ H10/6まで週1回の活動でした。最後の東原 でお別れ会をした後 ボランティアグループの今後を話し合い 県立リハビリセンター内の持養万寿の家で入所者と共に 楽しくおやつ作りをする会として H11/1 ~ 現在まで 続けています 震災から10年ボランティアを通じて仲間ができたことうれしく思っています	

震災復興支援活動の記録

<p>住所</p> <p>※①市町名は公開させていただきます</p>	〒	(事務局記入欄)
	(①市・郡・町) 明石市	
	(②区・町・字)	
	(②丁目・番地等)	
	(④TEL)	
氏名 団体名	財団法人 神戸YMCA 小澤 昌甲	
<p>活動の内容</p> <p>名称</p> <p>期間</p> <p>場所</p> <p>具体的内容</p> <p>うれしかったこと</p> <p>困ったことなど</p>	<p>神戸市長田区にあったYMCA（西神戸YMCA）を拠点に、地元の団体として、地域の被災住民皆さんの思いに対してできることは何か？という内からでてくる思いのなかで、避難所への救援物資の運搬や、避難所以外で住まわれるお宅（特に高齢者世帯）に対して、物資の提供や、個別の生活援助を震災2日後から2年間実施してきました。</p> <p>又子どもたちのレクリエーション活動として、被災地の子どもたちのキャンプ、運動、遊びなど団体そのものの特長を生かした活動も行いました。</p> <p>その担い手は、勿論全国からかけつけてくれた有志の人々であり、若者でありました。全国のYMCAを通じてよびかけた有志の人々はYMCAだけでも約3万人を越え、そこに目に見えない支援をして頂いた方はその3倍にも5倍にも数えられると推計します。</p> <p>西宮市にあるYMCA（西宮YMCA）に震災後土地を提供して頂き建てた、ボランティアハウスに寝泊まりしながら、被災地に駆けつけて頂いた人々の思いに、地元にある私達は、反対に勇気づけられて、活動が継続できたことであると、改めて感謝の気持ちで一杯です。</p> <p>又今から思えば、震災直後に被災をした人々は、見知らぬ人々がみんな、声を掛け合い、重い荷物を持って避難する人がいれば「大丈夫ですか？」と声をかけ、配給される物資が数が少なければ、一つのを分け合い、支え、支え合うことによって生きることを学んだと支援活動を振り返り思います。明日の子どもや若者にその生き方を、そしてその心を伝えていくことの使命を感じます。</p>	

震災復興支援活動の記録

<p>住所</p> <p>※①市町名は公開させていただきます</p>	<p>〒</p>	<p>(事務局記入欄)</p>
	<p>(①市・郡・町)</p> <p>明石市</p>	
	<p>(②区・町・字)</p>	
	<p>(③丁目・番地等)</p>	
<p>氏名</p> <p>団体名</p>	<p>田中喜代子</p> <p>大蔵こそだてファミリーサポートクラブ</p>	
<p>活動の内容</p> <p>名称</p> <p>期間</p> <p>場所</p> <p>具体的内容</p> <p>うれしかったこと</p> <p>困ったことなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ H10.6. 県発行の一時あすかりのファミリーサポートセンターの冊子を見て、明石にもつくりたいとの思いから、グループ“こそだてサポートクラブ”をつくりました。(アンケートから) ○ H10.10～ 交流会活動を大蔵コミセンを中心に始めました。孤立孤独、個室のお母さん方を手助けし、育児を通じて人づくりの輪を広げています。明石公園や大蔵海岸にいく遠足や、運動会も良い思い出です。 ○ H12.7～ グループとして、県の指導を受けながら一時あすかりを始めました。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ H14.7. 県のまちのこそだて広場事業に参加(明石で第1号)多くの見学者が来られました。 H15.9 県立看護大学の学生さんが2人、私達の活動を卒論にして下さいました。 H16.2. 親子ふれあいクッキング(第1回)保幼センター H16.11 兵庫県のふるさとづくり賞 奨励賞をいただきました。 <p>私たちがスタッフも、参加者や親子も、共に学び合い、成長していく喜びに満ちたグループづくりをこれからもめざします。</p>	